

セカンドオピニオンを希望される患者・ご家族の皆様へ

1. セカンドオピニオンとは

病気の診断や治療では、患者や家族が正しい情報に基づいて、担当医と十分に話し合い、納得して治療を受ける事がとても大切です。しかし、担当医と十分な話し合いを行なっていたとしても、「別の医師の話を聞いてみたい」と思うことがあるかもしれません。

診断や治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に求める「第2の意見」をセカンドオピニオンといいます。セカンドオピニオンは、今後も現在の担当医のもとで治療を受ける事を前提に利用するものであり、「セカンドオピニオンを聞くこと＝転院すること」ではありません。




例えば)

- ①がんと診断され、治療選択について説明を受けたが、決められない。
- ②がんと診断された。担当医から説明を受けたが、診断について別の医師の意見を聞きたい。
- ③担当医の話に納得がいかない部分がある。
- ④担当医の意見を別の角度からも検討したい。
- ⑤再発の診断を受けたが、担当医が提示する以外にも治療の選択肢がないか知りたい。

地域で専門的ながん治療の提供を行なう病院として国が指定している「定時がん診療連携拠点病院」を中心として行なわれる診療は、「標準治療」を基本とします。標準治療とは、現時点で最も効果が期待でき、安全性も確立した一番良い治療の事をいいます。

がん診療連携拠点病院では、標準治療に基づいて治療方針が決められるため、病院や医師によって意見が大きく異なることは必ずしも多くありません。しかし、同じ意見であったとしても、セカンドオピニオンを聞くことで、病気や治療への理解がより深まり、納得して治療にのぞむことにつながる場合があります。

セカンドオピニオンをどのように利用したいですか？

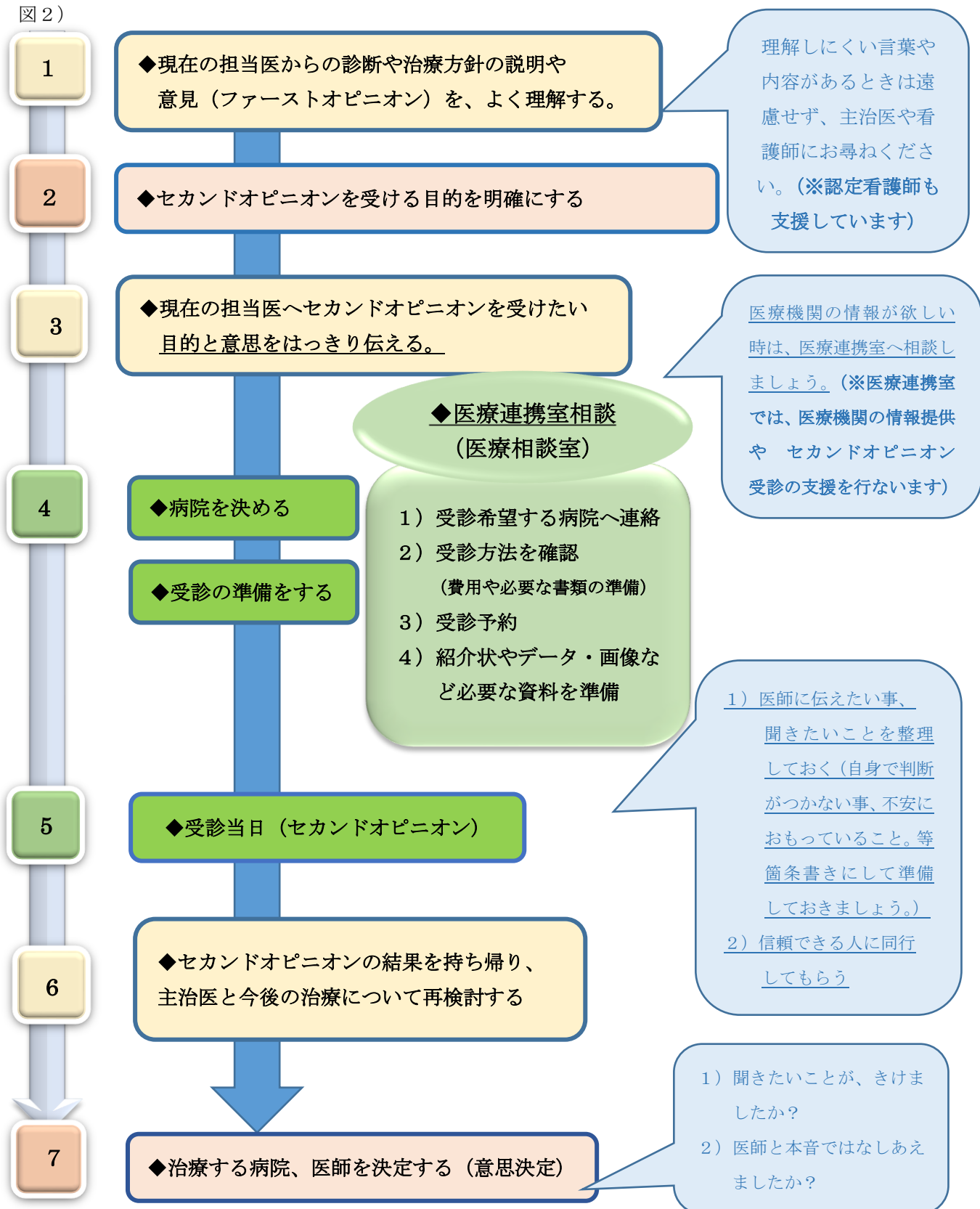
利用シーン1	利用シーン2	利用シーン3
本当の病名を知りたい	別の治療法を知りたい	新薬や治験・海外の治療情報を知りたい
		
胸がずっと痛いのが特に問題はないと診断されたが、本当に何も無いのか心配だ。	主治医の勧めた治療を受けているが、いっこうに良くならないので相談したい。	テレビで最新の海外の治療映像を見た。セカンドオピニオンで新薬や治験、海外の情報を知りたい。

セカンドオピニオンを希望される患者・ご家族の皆様へ

2. セカンドオピニオンを受ける手順

相談⇒セカンドオピニオン医療機関の検討⇒受診手続き⇒受診⇒結果相談

図2)



セカンドオピニオンを希望される患者・ご家族の皆様へ

セカンドオピニオンの料金は？

やはり気になるのはセカンドオピニオンを受けるときにかかる費用です。普通に病院で診察を受けるときの料金とは違ってきます。まず覚えておいて欲しいことは・・・

セカンドオピニオンでは、健康保険が使えない

ということです。セカンドオピニオンは、あくまで「診療」ではなく「相談」という立場なので、健康保険給付の対象とはならず、全額自己負担となり、料金が高くなるということになります。

やるべきことはわかっているけど病気を患い、心身ともに疲れている状況では、達成することが困難な場合があります。そんなときは**1人で抱え込むのではなく、友人や知人など周囲の人の力を借りると良いでしょう。**他にも**専門家によるサポートを上手に活用**しましょう。

病院や内容によっても変わってきますが、だいたい30分～60分の相談で30,000円から50,000円の料金がかかるというのが相場のようなようです。ただし、**セカンドオピニオンの費用は病院によってまちまちですし、サービス内容も異なる**ので、しっかり調べてから病院を選んでください。

ちなみに、生活保護受給者の方がご検討される自費診療に関しては、生活保護の医療扶助の対象外となってしまうので、セカンドオピニオンに相談することが事実上不可能となっています。

このように、セカンドオピニオンを受けるときの料金は自費診療なので料金が高めです。しかし逆を返せば、それだけ価値のあるものと捉えることもできます。

紹介状

紹介状は正式には診療情報提供書と呼ばれ、医師が患者さんを紹介するときに作成する書類です。

患者さんが他の医療機関を受診する際に所見・経過を確認するために必要となります。内容に関しては患者さんの基本情報、現在の主な症状や病名、これまでの症状や治療経過、現在の投薬内容、アレルギー歴、紹介の目的（詳しい検査、入院、手術、経過観察など）が書かれています。

患者さんの診療情報が詳細に引き継がれるため、次の医院でも改めて検査や診断をしないで継続的に診療を行うことが可能です。

検査結果

これまでに患者さんが受けた細胞検査や血液検査、レントゲンやCT、MRIなどの各種検査のデータなどといった検査結果は、これまでの診断情報を確認するためにも必要となってきます。

紹介状の作成にかかる費用ですが、これは診療報酬の中で定められています。患者さんにおける健康保険の自己負担比率や添付する検査データによってばらつきはありますが、紹介状の作成そのものにはだいたい数百円～千数百円が自己負担の費用として必要となります。

このように費用はかかるのですが、患者さんにとっては同じ検査を受けなくても良いというメリットがありますので、紹介状を活用することをお勧めいたします。